

保護者の皆様

喜来小学校長 竹内 照記



令和2年度 喜来小学校学校評価について

令和2年度の学校評価を行うにあたり、教職員・児童・保護者にアンケートを実施しました。教職員のアンケート結果を基にして、児童・保護者のアンケート結果を重ね合わせて自己評価を行い、本年度の重点目標の達成状況と来年度に向けての課題を明らかにしました。

※評価結果の表示について

- A 十分達成できている B ほぼ達成できている
C あまり達成できていない D 達成できていない

※数字(%)は、肯定的評価 教職員は(そう思う+だいたいそう思う)

児童・保護者は(よくあてはまる+ややあてはまる)を表す。

1. 本年度の重点目標 「よりよく かわる 喜来小学校」 【A】

日常の子どもたちの学習や生活の様子から、子どもたちは学年の枠を越えて仲良く遊んだり協力したりし、楽しく充実した生活を送っています。上学年を中心に、昨年よりも子どもたちが主体的に考えて行動する場面が増え、「よりよくかわろう」「喜来小学校をよりよくしよう」という意識が次第に子どもたちに浸透しているように感じます。

児童のアンケート結果は、「学校は楽しい」と答えた児童は96%でした。「困ったことや悩みがあった場合、先生は相談にのってくれる」と答えた児童が93%、「先生はいじめのない学校にしようとしている」と答えた児童が97%と昨年度を上回っており、安心して過ごせる心地よさが学校生活の楽しさにつながっているようです。

保護者のアンケート結果では、20項目のうち15項目の肯定的評価が昨年度よりも向上しており、学校の取り組みについて高い評価を寄せていただきました。

教職員のアンケート結果も、本年度の学校運営や教育活動に対して、肯定的評価がほとんどでした。

コロナ禍で様々な教育活動が制約を受ける中、昨年度に比べて本校教育活動への肯定的評価が各段に高まっていることから、「よりよく かわる 喜来小学校」については「A」と評価しました。

2. 実践事項

(1) 基本的生活習慣の定着 【B】

〈教職員〉

- | | | | |
|--------------------------------|---------------|---|---------------|
| ・あいさつの徹底・喜来小学校5つの心 | R1年度
(70%) | ↗ | R2年度
(95%) |
| ・規範意識の向上(きまりの理解と遵守, 交通安全指導の徹底) | (55%) | ↗ | (100%) |

〈児童〉

- | | | | |
|------------------------|-------|---|-------|
| ・あいさつや正しい言葉づかいができています | (90%) | ↘ | (86%) |
| ・学校のきまりを守り, 安全に気をつけている | (94%) | ↗ | (97%) |

〈保護者〉

- | | | | |
|-----------------------------------|-------|---|-------|
| ・お子さんは, 気持ちのよい挨拶や場に応じた言葉遣いができています | (76%) | ↗ | (78%) |
| ・お子さんは, 学習や仕事などを根気強く最後までやりとげている | (72%) | ↗ | (77%) |

- ◆ 児童の規範意識を高める取り組みが、基本的生活習慣の定着につながっています。気持ちのよいあいさつや正しい言葉づかいが児童の身に付くよう、今後も学校と家庭が連携して取り組む必要があります。

(2) 豊かな仲間づくりの推進 【A】

〈教職員〉

- | | | | |
|------------------------------|-------|---|-------|
| ・自尊感情の向上(互いを認め合う関係づくり, 成功体験) | (90%) | ↗ | (95%) |
| ・望ましい集団活動の充実(話し合い活動の活性化) | (70%) | ↗ | (85%) |

〈児童〉

- | | | | |
|------------------------------|-------|---|-------|
| ・学校は楽しい | (94%) | ↗ | (96%) |
| ・困ったことや悩みがあった時, 先生は相談にのってくれる | (91%) | ↗ | (93%) |

〈保護者〉

- | | | | |
|-------------------------|-------|---|-------|
| ・お子さんは, 学校に行くのを楽しみにしている | (89%) | = | (89%) |
|-------------------------|-------|---|-------|

- ◆ 「学校は楽しい」と感じる児童の割合が高く、主体的に課題に挑戦したり友達と協力したりする体験が豊かな仲間づくりにつながっています。楽しく充実した教育活動と困った時や悩みがあった時に相談にのってくれる先生の存在が、児童の自尊感情の向上につながっているようです。

(3) 確かな学力の向上 【 A 】

	R 1 年度	R 2 年度
〈教職員〉		
・よくわかる授業づくり（教材研究，指示・発問，板書の工夫）	（ 8 7 % ）	↗（ 9 0 % ）
・表現力の向上（授業における発言回数の増加と発言内容の充実）	（ 7 8 % ）	↗（ 8 4 % ）
〈児童〉		
・毎日の授業は，とても楽しい	（ 8 7 % ）	↗（ 9 0 % ）
・自分の思ったことや考えをよく発表している	（ 6 6 % ）	↗（ 7 1 % ）
〈保護者〉		
・お子さんは，授業が楽しくわかりやすいと言っている	（ 6 7 % ）	↗（ 7 2 % ）
・自分の考えや意見をしっかりと伝える表現力が身についてきた	（ 7 9 % ）	↘（ 7 6 % ）

- ◆ 教職員が教材や指示・発問，板書等，よくわかる授業づくりに努めたことが，児童の学ぶ意欲や学習活動の充実につながりました。授業における発表回数の増加や発言内容の充実，児童の思考力や理解力の向上につながります。今後も児童の表現力が高まるよう一層努力していきます。

(4) 人権教育・特別支援教育の充実 【 A 】

	R 1 年度	R 2 年度
〈教職員〉		
・弱者の立場に立った人権教育の理解と推進	（ 8 0 % ）	↗（ 1 0 0 % ）
・いじめ根絶と予防対策（何でも話せる学級づくり）	（ 1 0 0 % ）	↘（ 9 5 % ）
〈児童〉		
・先生は，いじめのない学校にしようとしている	（ 9 5 % ）	↗（ 9 7 % ）
〈保護者〉		
・子どもの人権を大切に，いじめのない学級づくりに取り組んでいる	（ 8 0 % ）	↗（ 8 4 % ）
・友達を思いやり，自他の生命を大切にしよう家庭でも働きかけている	（ 9 5 % ）	↗（ 9 7 % ）

- ◆ 全教職員が「いじめや差別のない学級づくり」に取り組んでおり，家庭においても，友達を思いやる心や自他の生命を大切にしよう働きかけを行ってきたことが児童の人権意識を高めています。今後も学校と家庭が連携し，いじめや差別を許さず，友達を大切に，正しい知識と判断をもとに自ら行動する力を高める人権教育を推進する必要があります。

3. 考察

- (1) 学校と家庭で努力した児童の規範意識を高める取組が基本的生活習慣の定着につながりました。
- (2) 互いに認め合い本音で語り合える学級づくりに全校で取り組んだことが，児童の自尊感情を高め，豊かな仲間づくりにつながりました。
- (3) 学習課題を明確にし，教材や板書を工夫したり指示・発問を明確にする取り組みが学ぶ楽しさを高め，児童の学習意欲を引き出し，確かな学力の向上につながりました。
- (4) 授業中の発言の回数や質を高める指導を継続して積み重ねるとともに，話し合い活動の活性化を図り，児童の表現力を鍛えることで，さらに確かな学力の向上を図ることができると考えられます。
- (5) 全教職員の「いじめや差別のない学級づくり」への取組が，人権教育の推進につながっています。
- (6) コロナ禍の影響により，従来の地域と連携した教育活動を実施することは困難でした。
- (7) 本校職員が重点目標を共有し協働する一体感ある取り組みを積み重ねたことが，多くの設問で児童や保護者の肯定的評価を増加させる大きな要因になったと考えられます。

4. 次年度の課題

- (1) 自尊感情の育成
- (2) よりよい仲間づくりの推進（安心して自分を出せる，互いに認め合い支え合う仲間づくり）
- (3) 人権教育の推進（特別支援教育への正しい理解と啓発。正しい人権感覚の養成）
- (4) 表現力の育成（授業等における発言の回数と質の向上。話し合い活動の活性化）
- (5) 読書活動の推進（図書室の積極的な活用と読書活動の充実，家庭読書の習慣化）
- (6) 家庭との連携の充実（基本的生活習慣の確立。家庭学習習慣の定着）
- (7) G I G A スクールの実践研究及びSTEAM教育の推進